

グローバル・サウスとの共創

「日本の国際協力」「タンザニア絵本プロジェクト」「在来知・食・健康」

国際学部 阪本 公美子・内田 啓子・菊地 由起子

2023年度の活動報告

＜公開セミナー・シンポジウム＞「日本の国際協力」

多文化公共圏フォーラム第6回「アフリカ論」公開授業を2023年6月29日（木）に参加者44名で行い、講師の荒木康充氏に「ガーナにおける国際協力の現場」についてお話しいただいた（特集記事参照）。

2024年1月11日（木）に同フォーラム第25回「途上国経済発展論」公開授業を開催し、講師の上村雄彦先生に「持続可能な地球社会に向けた革新的政策と制度の考察ーグローバル・タックス、GBI、世界政府を中心にー」について講演をして頂き、35名が参加した。

「タンザニア絵本プロジェクト」（内田・阪本）

プロジェクト2年目の今年は、昨年度よりご協力いただいている市貝町の小野寺幸絵さんと、協力学生の平尾結さん（国際学部3年生）の活動を報告する。

絵本の主人公であるつばきちゃんと同様に、ご自身も平成9年から2年半、JICAの青年海外協力隊として中米コスタリカで従事した経験を持つ小野寺さんは、『ニョタのふしぎな音楽』（以下、『ニョタ』）を手にとったとき、すぐにお話の世界に入ることができたと話す。実際に子どもたちに絵本を読むときは、「私のお友だちが経験したお話なんですよ」と、語りかけてから、『ニョタ』の絵本を開くという。

小野寺さんは10年近く市貝町立小貝小学校で読み聞かせ活動が続けられており、今年度は5月17日に新1年生12人に、9月6日に4年生15人に、10月18日には3年生10人に、『ニョタ』

を読み聞かせしていただいた。昨年度から始めた『ニョタ』の読み聞かせは、今年度を通して全学年で行われた。小野寺さんの活躍により、現在同小学校に在籍する児童のほぼ全員が『ニョタ』の世界に触れることができた。

小野寺さんの活動のユニークさは、ご自身の趣味でもあるアフリカダンスを活かした読み聞かせにある。絵本の最も重要なシーンであるニョタのふしぎな音楽を、実際に子どもたちに体験してもらおうのだ。小野寺さんの歌にあわせて、子どもたちは小野寺さんが持参したジャンベ（西アフリカの太鼓）やカリンバ（指ピアノ）を自由に叩き、奏で、踊る。小野寺さんは、子どもたちが絵本から教訓めいたことや知識を得るよりも、『ニョタ』の世界を通して色々なことを感じてほしいと考えている。感想を無理に言語化せずとも、絵本を通して感じることは子どもそれぞれであり、楽しんで聞いてもらうことを大事に活動しているとお話されていた。

12月4日には協力学生の平尾さんが、宇都宮市立陽南小学校放課後子ども教室で『ニョタ』の読み聞かせを行った。

はじめこそ落ち着きがなかった1年生から5年生までの50人は、カンガを身にまとった平尾さんが『ニョタ』を読み始めると、絵本に見入った。子どもたちは自分と違う肌の色をした人々、カラフルだけれど優しい色彩の世界に興味深々の様子だった。写真や地図でアフリカを紹介し、子どもたちが太鼓を叩き、カンガを身にまとった後、『アフリカの音』（沢田としき著1996、講談社）も読み聞かせした。最後に、人形劇団の豊口政子さんが連れてきてくれた様々な国の人形たちを手にしなごら、豊口さんのギターに

合わせ「世界中の子どもたちが」を歌った。元気のいい子どもたちがとても印象的だった。以下は平尾さんの感想である。

「今回初めて絵本の読み聞かせに参加させて頂きました。皆、集中して聞いてくださり、聞き慣れない道具や植物について疑問を持ってくれた子も多い様子でした。楽器や現地の服を体験していた子たちの中には、日本にあるものと比較して素直な意見を述べ、気付きにくい服の細かい模様について指摘する子もいました。最後にはスワヒリ語で「ありがとう」と言って頂きました。貴重な経験ができ、本当に良かったです。」

私たちの活動は、長年にわたり学校と信頼を築きあげてきた地域ボランティアの方々の活動に支えられている。今年度は市貝町小貝小学校ボランティア：小野寺幸絵さま、人形劇団おはなしの森人主催：豊口政子さま、宇都宮市立陽南小学校放課後子ども教室キッズベースコーディネーター：大垣さま、陽南小学校保護者のみなさまにご協力いただいた。豊口さまと大垣さまは事前打ち合わせにもおつきあいをいただいた。この場を借りてお礼を申し上げます。

また今年度は上記の他に、タンザニアにReady forの贈呈分に加えて4冊、宇都宮市国際交流協会に1冊、協力者に4冊、計10冊の絵本

を寄贈した。来年度は更に多くの子どもに、楽しんでもらえるよう活動を広げていきたい。

絵本詳細

阪本公美子・杉山祐子・坂井真紀子著、武村景子スワヒリ語訳、フランシス・パトリック・イマンジャマ（ルーバス）絵（2021）『ニョタのふしぎな音楽～タンザニアの星空のもとで』三恵社

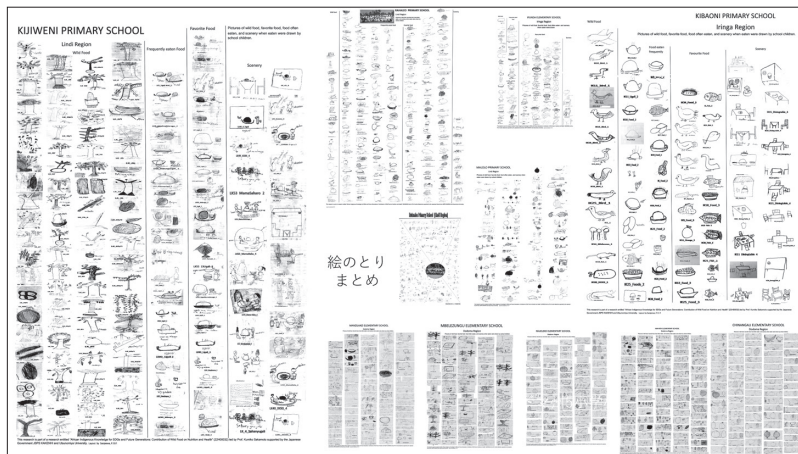
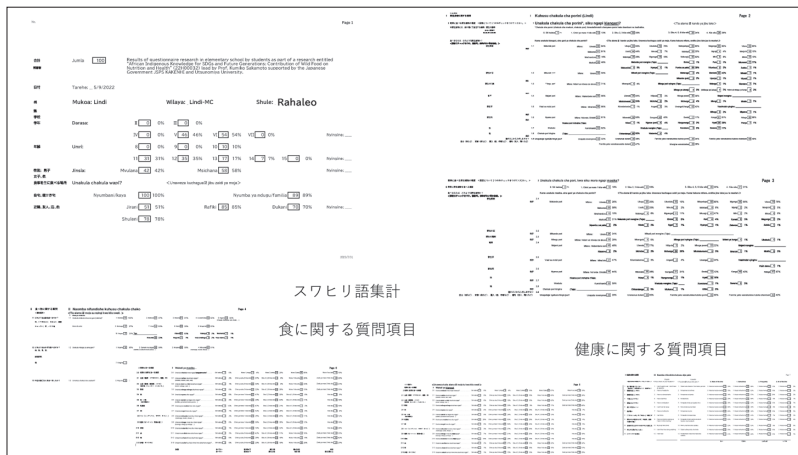
「在来知・食・健康」（阪本・菊地・内田）

タンザニアの在来知・食・健康に関する科研の一環として、タンザニアにおける現地調査とともに、とりまとめてきた内容を現地に地域貢献としてフィードバックした。

タンザニア出張：2023年8月16日～9月14日のうち、津田勝憲がリンディ州とダルエスサラーム、林将之がドドマ、イリング、モロゴロ、奥井鮎紗がイリング、加藤珠比がモロゴロにて参加し、阪本が全調査に参加した。タンザニア南東部リンディ州4小学校、中部ドドマ5小学校、南部イリング3小学校、中部モロゴロ2小学校において、2022年に行った野生食物と食事に関するアンケート調査結果や研究結果のフィードバックや追加アンケートを実施した。リンディ州とドドマ州の栄養素の情報も含む野生

タンザナリアンディの小学校での絵本寄贈の様子（2023年8月15日）



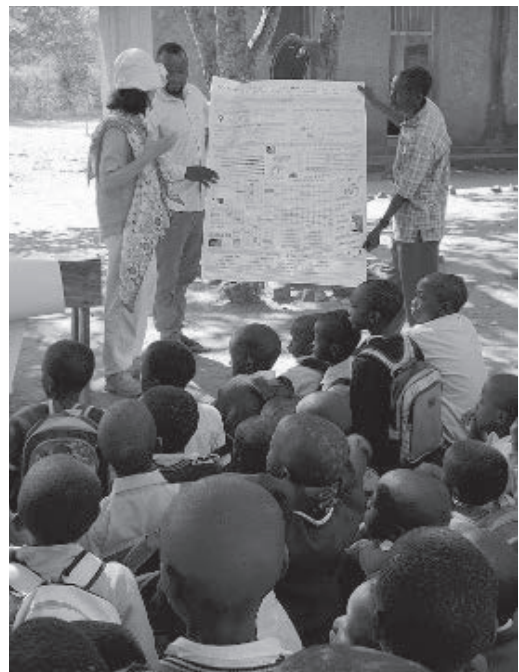


食物図鑑原案を共有・確認するとともに、周辺の野生食用植物の採集・同定を行った。また、子どもたちを対象に参加型調査も実施した。

なお、今次調査で追加実施した2校（モロゴロ州）を含め、全14校から2022年調査後に実施されたアンケートを回収・集計した。その結果、2023年実施分の収集数は1,077人、2022年実施分（1,006）を含む累計数は2,083人となる。

出張前に収集したイリंगा州2校、リンディ州4校、ドドマ州5校の計11校のアンケートの集計結果（菊地統括担当）を各学校にフィードバックした。

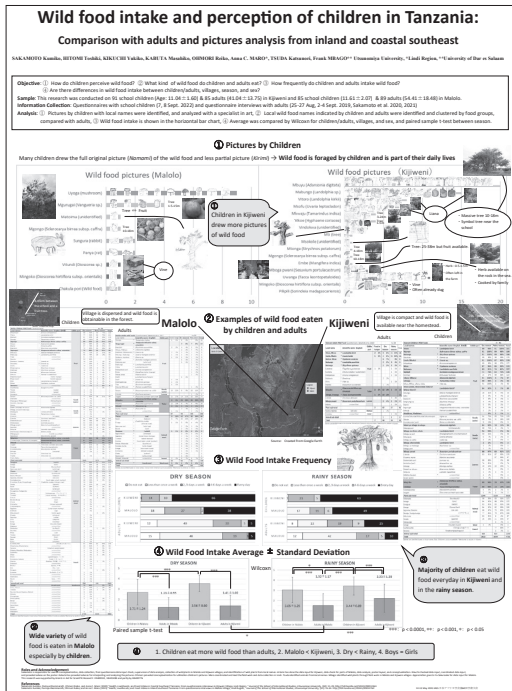
同小学校アンケートにおいて生徒が描いた絵から小学校ごとにポスターを作成し（Polgahagedara Don Pubudu Sanjeewa, Frimpong Andrew Charles担当）、同学校に贈呈した。



日本アフリカ学会、国際開発学会でポスター発表（国際学部3年生人見俊輝、阪本担当）した内容を、該当する小学校、州や大学関係者に共有し、フィードバックした（写真はリンディマロロ小学校にて8月15日）。

半乾燥地ドドマ州において鉄分やミネラルの多い野生食物についてスワヒリ語でポスターを作成し、配布した。

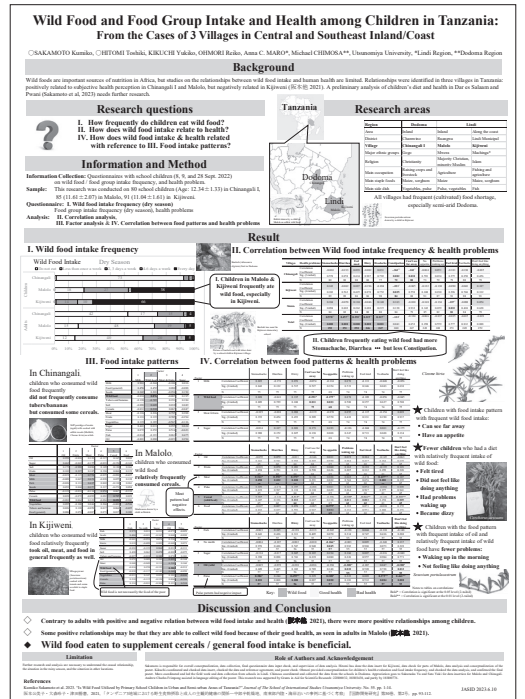
日本アフリカ学会発表（2023年5月27日）



フィードバックについて、小学校や関係者には、研究の現地還元として歓迎された。

いずれの活動においても、学生・市民・研究者がそれぞれの強みを活かし、国内外の地域においてグローバル・サウスと共創できる公共圏を創造するとともに、栃木県内、並びにタンザニアにおける小学校や地域に還元する活動を行った。

国際開発学会発表（2023年6月10日）



WBOGA ZA ASILI NA UTAJIRI WA MADINI CHUMA, KALSIUM NA PROTINI
WILD LEAFY VEGETABLES ARE FULL OF IRON, CALCIUM AND PROTEIN!!

Jina la kigogo Gogo name	Jina la kisayansi Scientific name	Hali	Condition	Chuma Iron (mg)	Kalsiamu Calcium (mg)	Protini Protein (g/100g)	Karotini β-Carotene (mg)	Vitamiini C Vitamin C (mg)	Nyuzi Nyuzi Fiber (g/100g)
Chipali (p.l. Mapali)	<i>Ipomoea obscura</i> , <i>I. mombasana</i>	Mbichi	Raw	55	944	10	218	1	9
		Iwanga wa kavu	Crushed & Dried	69	1,486	4	2,907	6	9
		kavu	Dried	51	1,353	5	367	2	9
Hende	<i>Ceratophyllum demersum</i> & <i>Cucumis dipsaceus</i>	Mbichi	Raw	44	2,795	4	17,489	5	8
Hende, Mgalu	<i>Ceratophyllum demersum</i>	Mbichi	Raw	40	1,060	13	735	1	9
Muhilile	<i>Cleome hirta</i>	Mbichi	Raw	45	2,104	9	1,449	1	7
Maweza	<i>Ipomoea sinensis</i> subsp. <i>blepharosepala</i>	Mbichi	Raw	42	496	8	193	1	10
Mgagadi, Mzimwe	<i>Cleome gynandra</i>	Mbichi	Raw	27	1,154	12	3,176	14	9
Humba, Huluhuli	<i>Cucumis dipsaceus</i>	Mbichi	Raw	7	805	2	467	6	12
		Ilyokoman	Raw	7	1,557	9	-	1	15
Ikawi	<i>Adansonia digitata</i>	Hajakuman	Mature	1	372	4	305	0	11
		young	Raw	0.5	59	0	-	22	2
Matembele	<i>Ipomoea batata</i>	Mbichi	Raw	0.5	59	0	-	22	2

Local collaborator, poster layout and design by: Mr. Michael CHIMOSA
 Collaborator: Ms. Nshoko Tsubaki NZILLUNGE
 Responsible, editor: Prof. Kumiko SAKAMOTO
 Utsunomiya University
 Supported by Grants in Aid for Scientific Research: 18H03438 and partly by 22H00032 & 18H00776

Analyzed by: Tanzania Bureau of Standard (TBS)
 The International Institute of Tropical Agriculture (IITA)
 Analysis coordinated by: Dr. Lilian KAALE
 University of Dar es Salaam
 Scan pictures provided by: Mr. Masayuki HAYASHI
 Identification by: Mr. Frank MBAGO

<学会発表>

Sakamoto Kumiko, Hitomi Toshiki, Kikuchi Yukiko, Kabuta Masahiko, Ohmori Reiko, Anna C. Maro, Tsuda Katsunori, & Frank Mbago (2023年5月13-14日) “Wild Food Intake and Recognition of Children in Tanzania: From Analysis of Questionnaires Comparison with Adults and Pictures of Inland and Coastal Southeast,” 第60回日本アフリカ学会学術大会 (千葉) ポスター発表, p.144 <https://conference.african-studies.com/summary.html>

Sakamoto Kumiko, Hitomi Toshiki, Kikuchi Yukiko, Ohmori Reiko, Anna C. Maro, Michael Chimosa (2023年6月10日) “Wild Food and Food Group Intake and Health among Children in Tanzania: From the Cases of 3 Villages in Central and Southeast Inland/Coast,” 第24回春季国際開発学会 (秋田) ポスター発表

<出版>

武藤杏子、津田勝憲、加藤珠比、林将之、奥井鮎紗、大森玲子、阪本公美子 (2024) 「タンザニア7地域の市場調査—取り扱い食品から見る地域食性—」『多文化公共圏センター年報』、第16号。

Sakamoto Kumiko, Frank M. Mbago, & Hayashi Masayuki (2023) *Field Guide to Edible Plants and its Nutrition in Tanzania: Focusing on Dodoma and Lindi*, Center for the Multicultural Public Sphere (CMPS).

Sakamoto, Kumiko, Lilian Daniel Kaale, Reiko Ohmori, Tamahi Kato (Yamauchi) eds. (2023) *Changing Dietary Patterns, Indigenous Foods, and Wild Foods: In Relation to Wealth, Mutual Relations, and Health in Tanzania*, Springer.

Sakamoto Kumiko, Hitomi Toshiki, Kikuchi Yukiko, Ohmori Reiko, Anna C. Maro, & Michael Chimosa (2023) “Preliminary Analysis of Wild Food

Intake and Health Among Children in Central and Southeast Inland/Coast Tanzania: The Cases of Chinangali, Malolo, and Kijiweni Villages,” *Journal of the School of International Studies, Utsunomiya University*, no.56, pp.1-14. <https://uuair.repo.nii.ac.jp/records/2000019> (8 Oct 2023)

Sakamoto Kumiko, Kikuchi Yukiko, Michael Chimosa, Frank Mbago, Sato Yuki, & Ohmori Reiko (2024) “Children’s Food, Wild Food, and Health in Semiarid Tanzania: Differences Within Neighboring Schools in Chamwino, Dodoma,” *Journal of the School of International Studies, Utsunomiya University*, no.57.

Sakamoto Kumiko, Michael Chimosa, Hitomi Toshiki, Kikuchi Yukiko, Frank Mbago, & Ohmori Reiko (2024) “Children’s Wild Edible Food Preferences and Health Influences in Semiarid Tanzania: Preliminary Analysis with a Focus on Diarrhea and Constipation”, 『多文化公共圏センター年報』、第16号。

<メディア報道>

国際学部説明「国際学部と多文化公共圏センター」(2023年10月30日オンライン国際学部ウィーク) <https://www.youtube.com/watch?v=z5s8ZylEtp0>

TBC NEWS (2023年10月30日10:00~10:30PM) <https://www.youtube.com/watch?v=DwkrF7v-eP4>
タンザニアのメディアにて阪本が植物学者ルフォ氏の外務大臣表彰授与式に祝辞。

<予算・研究費など>

「SDGs時代・将来世代のアフリカを来知—タンザニアの野生植物の食・健康への寄与」(基盤研究A、阪本公美子代表)

宇都宮大学国際学部ミッション達成支援経費